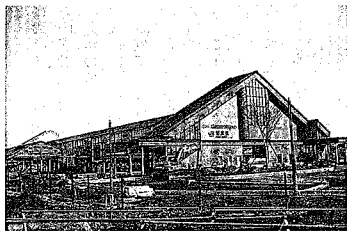


次に安全、安心な生活環境対策であります。

まず水害対策ですが、近年の水害は、短時間で大量の降雨が排水能力を超えて一挙にあふれ出る「都市型、内水型」であることを特徴としております。荻川地区、本町四丁目、田家、中沢地区における床上浸水被害の解消を最優先課題として取り組むたいと考えております。荻川ポンプ場につ

きましては、平成十四年三月末の完成を目指して鋭意努力しているところであります。また、排水のネックとなっておりまた南部雨水一幹線の信越本線横断部分につきましても、新年度内の完了に向け公共下水道整備の推進を図ってまいります。一方、公共下水道の接続により不要となる各家庭の浄化槽の雨水貯留施設への転用につきまして、流出量の抑制を図る観点から、引き続き協力をお願い

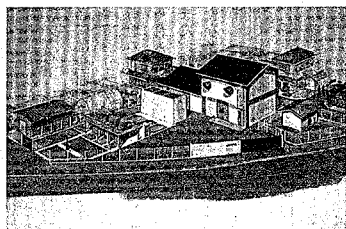


新津駅東西歩行者道と西口広場

してまいりたいと思っております。また、小阿賀野川および能代川の改修につきましても、流下能力毎秒七百六十トンの確保を目指し、県が「河川災害復旧等関連緊急事業」に本年度着手いたしましたことから、小阿賀野川、能代川の被害に対する安全度を一日も早く高めるため、早期に改修が完了するよう要望してまいります。

市民の皆さんの生命、財産を守り、安全で安心な生活を確保することは行政の根源的な責務であり、まちづくりの基本理念であります。都市の災害に対してのまさ、とりわけ日常生活における危機管理のなさを私たちは阪神淡路大震災を教訓に学んできてまいりました。公共的な防災組織だけでは一定限度を超える大災害が起これば、特に初期防災に手が回らなくなるのは必然であります。初期消火、初期救出の体制のありなしは結果に致命的な差異を生むこととなります。そうした観点から、幅広い視点に立った総合的な危機管理対策を進めたいと考えております。

消防・救急体制の充実や災害時の情報伝達を担うコミュニティ放送の支援、自主防災組織の育成など、災害時の被害を最小限にとどめる減災対策に力を注いでまいります。しかし、一人ひとりが「自分の身は自分で守る」という意識を持つことや、災害弱者といわれる



荻川ポンプ場(完成予想図)

高齢者や障害者がある人たちが普段から温かく見守る地域コミュニティの存在が最大の減災対策であります。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いするものであります。

二十一世紀を迎え、市民一人ひとりが地球規模の環境問題を自分のこととして真剣に考え、実践していかなければならない時代にきています。本議会におきましては、「新津市環境基本条例」の制定をお願いしているところであります。が、新年度では、既に策定済みの「新津市地域新エネルギービジョン」なども包括した「環境基本計画」の策定に取り組んでまいります。また、環境とエネルギーをテーマとした「地域エネルギーシンポジウム」の開催も予定しており、循環型社会の形成に向け努めてまいっている所であり

ます。最新処分場の建設、し尿処理施設の更新は、当市にとって喫緊の課題であり、解決に向け全力で取り組んでまいりたいと考えております。また、公共下水道汚水利用開始区域における水洗化率の向上に向けて、市民の皆さんからご協力いただけるよう引き続き努力してまいります。

本市には阿賀野川や信濃川、それを結ぶ小阿賀野川、そして市内を縦貫する新津川・能代川、さらやふるさとと呼ばれる緑豊かな丘陵地帯の広がりがあります。いずれも、本市固有の自然特性といえるものであります。こうした美しい自然を守り、自然との共生を進めるため、これまでゴミの減量化やポイ捨て防止条例の制定など、美しいまちづくりに向けた施策を積極的に進めてまいりつたところであります。しかし、こうした制度面だけではなく、多くの市民の皆さんの地域に対する熱い思いが美しいまちづくりの大きな原動力であったと考えております。今後、皆さんの力をお借りしながら、美しい生活空間の創出に努めてまいりたいと思っております。

現在、国土交通省、水原町および安田町と連携して金屋地内において「阿賀野川水辺プラザ」事業に取り組んでおるところであります。

二

明るく元気なまち

「健やかで優しさが響き合うまち」

す。これは、川を中心とした憩いの空間創出を目指すものであり、単なるハード整備にとどまらず、

ここで環境やエネルギー資源について学んでいただくことも整備メニューとして盛り込むこととして

おります。今後も本市の特性に着目した「水と緑のネットワーク」形成に

努め、想いとやすらぎの場の創出とともに美しいまちの創造に努力してまいりたいと考えております。

昨年四月からスタートした介護保険制度は、保健・医療・福祉にわたる各サービスが総合的、一体的、効率的に提供されるシステムであるとともに、「措置から契約」「公から民」への転換でもありました。この制度が円滑に運営されるよう、高齢者保健福祉計画に基づき、組織体制の整備や介護サービス提供のための基盤整備を進め、サービスの質や量の確保に力を注いでいるところであります。新年度には、社会福祉法人・大形福祉会が事業主体となって「車場デイサービスセンター(仮称)」が創設されることとなりましたので、市いたしました。その建設費を支援してまいります。また、国の特別対策事業として、生活困難者に対する介護サービスの利用料減免制度が創設されますことから、低所得者に対し社会福祉法人等が介護サービスに係る利用料金を減免した場合に、当該社会福祉法人等に助成する制度に新たに取組む、介護保険サービスの利用促進を図ってまいります。なお、介護保険制度の実施に伴



郷しの福祉ゾーンの「ぶどう工房」

い、医療保険給付では支給されるのに介護保険給付では支給されないなど不均衡が生じている高齢者入院見舞金の見直しとともに、介護の社会化を進める上で現金給付よりサービスの利用に重点をおいた施策を推進する必要があることから、高齢者等介護奨励金についても見直していきたいと考えております。高齢者の問題は、何より「介護を受けやすい環境づくり」が重要であります。これまでも介護予防の観点から、生活管理指導や生活支援事業などに取り組む、高齢者の健康保持に力を注いでまいりました。

た。新年度は新たに、食生活改善を支援するための教室や、生きがいと健康づくり教室等を開催するなど、介護状態に陥ることなく健康で生き生きとした生活を送れるよう支援を充実させていきたいと考えております。コミュニティデイホーム「お茶の間」につきましては、将来のケアサービス化を目指して、当面市単独で存続させることとしたしております。次に、障害者福祉についてであります。「癒しの福祉ゾーン」には、既に特別養護老人ホーム「はさぎの里」と知的障害者入所更生施設「満日の里」がオープンしており、本年四月には親和福祉センターの障害者通所授産施設「けやき福祉センター」と精神障害者通所授産施設「ぶどう工房」が開所する予定です。また、「癒しの福祉ゾーン」の施設として、隣接するB&C海岸センター、グリーンセンター、ゲートボール場を活用すること、このゾーンは太陽、緑、土の恵みを感じ、人とのふれあいによつて

- 車場デイサービスセンター(仮称) 創設事業 : 409.9万円
- 車場デイサービスセンター(仮称) 助成事業 : 151.1万円
- 低所得者世帯に対し社会福祉法人等が実施する介護サービスの利用料減免について助成 : 8.8万円
- 高齢者の生きがいと健康づくり事業 : 930.5万円
- 福祉施設はさぎの里「満日の里」1「けやき福祉センター」ぶどう工房」の建設費助成、周辺道路の改良工事費、ボランティア支援センター(仮称)の実設計委託費 : 3.6万円

三

運動広場の管理道路舗装などを行います。

- 南部雨水一幹線整備事業(下水道事業特別会計) : 500.0万円
- 田家・中沢地区の床上浸水解消のため、雨水管の信越本線横断部分の工事を行います。 : 1億665.9万円
- 市営住宅建て替え関連事業 : 66.5万円
- 西島と新築の老朽化した市営住宅を建て替え、木造二階建て三棟十二戸を建設します。また、新築市営住宅一戸棟に入居者の有料駐車場を整備する。 : 30.0万円
- 環境基本計画推進事業 : 59.9万円
- 環境基本条例に基づき、環境基本計画の策定に取り組みます。 : 59.9万円
- 電池収集運搬 : 206.3万円
- し尿処理施設建設事業 : 310.0万円
- 阿賀野川水辺プラザ整備事業 : 310.0万円
- 阿賀野川の雄大な自然や歴史、文化を学び、川と親しめる交流と情報発信の拠点を目指し、順次整備していきます。今年度は堤外の芝張りや金屋池の収集を始め、新たに電池の収集を始めます。 : 206.3万円
- 新しいし尿処理施設の建設に向けて、生活環境影響調査や基本計画作成を行います。 : 310.0万円
- 阿賀野川の雄大な自然や歴史、文化を学び、川と親しめる交流と情報発信の拠点を目指し、順次整備していきます。今年度は堤外の芝張りや金屋池の収集を始め、新たに電池の収集を始めます。 : 206.3万円